

特定非営利活動法人

白山の自然を考える会



会報 しらやま
NO.111

【理事長】 石野 洋
【事務所】 〒921-8817
野々市市横宮8-5
つばき通り百番ビル206号

【事務局・連絡先】
深田和人 〒921-8105
金沢市平和町3丁目18-10
C55-23
TEL 076-247-5463

<http://hakusankangaeru.wix.com/mainpage>

【郵便振替口座】
「白山の自然を考える会」
00700-0-8593

【定 価】 140円



「山の目制定に寄せて」

理事長 石野 洋

私は、金沢の街に生まれ育ちました。幼い頃は浅ノ川河畔、東山の麓に住んでいましたが、浅野川の氾濫にあい自宅は軒下まで水に浸かりました。水が引くまで二階の屋根から小便をしていた記憶があります。

物心ついてからは犀川河畔に住み、今も

毎日川のせせらぎの音を聞いています。犀川の増水で木造の新橋が流木で倒壊し流されたことを覚えています。金沢では川が溢れることはしばしばあるが、特に大きな災害は今のところないように思っている。台風が来ても不思議に避けて通ってしてしまう。これは白山が屏風のように後ろに聳えて加賀平野を護ってくれているのだと思っている。

人が住み、生活していく上で最も大切な

ものは、水ではないでしょうか。

最近山間地域の開発が進んできており憂慮している。私は水源地域こそは聖域として手をつけずに残しておくべきものだと考えている。その水源の最たるものは白山である。

昭和 43 年に金沢大学に入学し、先輩の勧めで白山診療班に加わった。夏休みの 10 日間を白山室堂に入り、急病人や軽いけがの応急手当をして過ごしていた。医師の資格もないのに当時は誰も何も言わず、おおらかに見過ごしてもらっていた。

室堂で忙しいのは 7 月の終わりから 8 月初めの時期のみで、1000 人ほどが宿泊していたが、それ以外の時期は登山客も少なくゆったりと自然に身を任せて時間を過ごすことができた。しかし繁忙期に 1000 人も登山者が宿泊すると、さすがに水の汚染が生じ、弥陀ヶ原の下の水源に大腸菌が検出されていた。

昨今、観光登山が勧誘され、多くの登山客を誘致しようと宿泊施設を拡大し、あるうことか水浴シャワーの設備まで新設している。自然はあるだけ潤沢に消費してよい資源ではありません。一度壊すと再生には気の遠くなる時間が必要となります。もっと気を配って大切に護ってほしい。利益誘導の営業に知恵を絞るのではなく、自然自身が再生維持可能な程度の負担はどれくらいまでが許容されるのか。予備能力を十分残すことを考えてやらなければいけないのではないのでしょうか。

美しい自然を壊さずに維持し、楽しむにはどうすべきか、みんなで考えましょう。

テガタチドリ

白山では群生で見ることが少ないこの花は、立山室堂山荘近くに何本か固まりとなって見事だった。富士山では、宝永火口周辺草地で偶然見つけた。

絵の花のアップで示すように、花の形が鳥が飛んでいるようで、そこから千鳥と名が付いた。花の後ろは尻尾のように長く伸びる。根は手のひら状に見えることからテガタとなった。

高山性のランは優美で繊細。この花の仲間にハクサンチドリがあり、白山では時に見つける程度。

絵と文 金栄 健介氏

※この原稿は 2012 年 8 月 20 日に北陸中日新聞(朝刊)に掲載されたものを、著者及び北陸中日新聞の許可のもと転載しています。

金栄健介氏におかれては、去る 7 月 13 日に 80 歳で故人となられました。心よりお悔やみ申し上げます。なお、巻頭の絵については、ご遺族のご了解のもと今後とも使用させて頂くこととなりました。



<南縦走路合流点>

新理事に就任して

井澤 厚

私が「白山の自然を考える会」と関わりを持ったのは、17年前になります。当会と富士ゼロックス端数倶楽部が合同の自然観察会を開催し参加する機会があったからです。

当時、全国の名山登山に夢中で「白山」の名前を聞いて、居てもたってもいられず、参加申し込みをしました。当時の事務局長高橋外男さんが熱心に白山山麓の自然の大切さ、保護の重要性を力説しながら案内してくれたのを今でも鮮明に覚えています。

その縁で早速会員になり、年一回の総会に参加するように心がけ今に至ります。当時は、全国で大規模林道造成が問題になり、端数倶楽部の仲間と各地に出かけた記憶があります。西日本では広島県の十方山林道(細見谷溪畔林道)、東北では岩手県の早池峰山山麓を走る早池峰林道、特に東北地方が手つかずになっていたこともあって、あちこちに林道開発がすすめられていました。

全国で開催される大規模林道問題集会に仲間たちと出かけ各地の自然保護団体と交流を持ちました。地域振興や利便性をうたい文句に続々とスーパー林道が作られました。東北地方では年間の半分は降雪で閉鎖され、雪解け後は雪崩や湧水で林道が破壊され、手直しをしなければならいと地元の人の嘆きを耳にしました。

白山の自然を考える会と富士ゼロックス端数倶楽部との出会いも同じであったと聞いています。富士ゼロックスの仲間の一人が、白山登山の帰りにピラ配りをしてきた白山の自然を考える会の会員の方と出会い、少しでも力になれるかと交流会を企画し、その後の支援へとつながっていききました。

地方で草の根活動をする団体を支援す

るのが端数倶楽部の基本的考え方です。ちょっとしたきっかけで、出会いが生まれ活動の後押しが出来ることは素晴らしいことだと考えています。

これからも、「白山の自然を考える会」と「富士ゼロックス端数倶楽部」との橋渡し役として、活動していきたいと考えております。



事務局短信

5月	6日(金)	会報発送・運営会議	7名
	15日(日)	生物部会(吉次山)	5名
6月	3日(金)	運営会議	6名
	11日(土)	外来植物対策	27名
	12日(日)	トラスト山調査と 作業参加	5名
	19日(日)	避難小屋ブラシ取付	2名
	26日(日)	チブリ尾根下草刈り	30名
7月	1日(金)	運営会議	8名
	24日(日)	トラスト山作業	4名

(続) 山路きて 深田百名山完登記
第7回

「山の茜をかえりみて」

室谷 博子

「山の茜を顧みて 一つの山を終わりけり」

深田久弥文学碑 (大聖寺 八間道)

ひとつの山を無事に登り終えた安堵と幸福。振り返り見れば、その頂は夕景の中にほのかに茜色を帯び輝いて、穏やかに時間が過ぎていく……。

深田久弥が大聖寺の人だったのは、私には非常な幸運のように思える。

大糸線や信越線を乗下車して山に向かう時の浮き立つ思いは、登山口まで車で直行する今風のスタイルとは異なって、古雅な趣がある。久弥も車窓から見た山々の連なりを、私もまた見ている。

北信五岳 (飯綱山、黒姫山、戸隠山、妙高山、斑尾山) だの、頸城三山 (妙高山、火打山、焼山) だのと耳にすると、何か甘美な想いとらわれるのは、そこが、私には大切な思い出の山々のせいなのだろう。

久弥にとって雨飾山は特別な山—初恋の人を伴っての人目を忍ぶ登山—だった事は、つとに有名だが、私が雨飾山 (新潟県 1963m) <9>の頂に立ったのは、30余年前、JR 大糸線中土駅から路線バスを乗り継いでのことだった。

山頂、双耳峰の片隅には、数体の石仏が安置されていて、涼しい風が吹いていた。

職場の同僚 T 女とは、尾瀬や白馬四谷、志賀高原や苗場山と随分遊んだ。夫君は東大紛争に関わった強者で、某大学の物理を担当、教授会などを軽蔑し攪乱してしてい

るのよと、聞かされたが、T 女は天性のおおらかさでそれを受け入れ、山中でも私の指示にはてんで、従おうとしなかった。すぐる夏、

スキー場を抜け、オオシラビソの林をたどって、苗場山 (新潟県 2145m) <32>を目指したが、この山の頂上には、広大な高層湿原が広がっていて、ワタスゲが白い綿毛を纏って、風に揺れていた。T 女は画帳を取り出し、悠然とスケッチしはじめた。

翌朝、秘境秋山郷めざして小赤沢コースを下ったが、彼女はもう疲れ切っていて、その足取りは鈍く、鉄分を含んだ赤褐色の湯が濁って湯舟の底も見えないほどと評判の、山麓の温泉に入りそこね、漸く、津南行きのバスに乗ることができた。

音楽療法 (歌や手拍子や楽器を媒体として、心のケアをする心理療法) 講習会で息のあった K 女達は、高齢者介護の現場を仕切るリーダーだけあって、バイタリティーに溢れ、感性豊かだった。



ニッコウキスゲ

八方尾根から白馬三山をながめ、夕べには唐松山荘の豪華な食事を楽しんだ。鳩待峠から木道をくだって尾瀬ヶ原へ。朝霧の中に浮かび上がる、灰白色のブナ林の遠景が美しい尾瀬沼の散策。嬉々として、互いにポーズを決めて、カメラの被写体に納まった。

火打山（新潟県 2462m）＜31＞では、キヌガサソウやハクサンコザクラの群落に歓声を挙げたが、同時に高谷池ヒュッテや黒沢池ヒュッテを泊まり歩いて、山小屋ライフを満喫した。

松本からのバスを石切り場でおりて、王ヶ頭まで標高差700m余、彼女たちには立派な登山行為で、自慢げで、だから美ヶ原（長野県 2034m）＜36＞の広大な溶岩台地のそこかしこに草をはむ乳牛たちに、痛く、親近感を抱いたらしい。

霧ヶ峰（長野県 1925m）＜37＞八島湿原の南端には、鎌倉時代に、武士たちが巻狩りの神事を奉げた元御射山（もとみさやま）の古い社殿が杜に囲まれて立っていて、往時を偲んだりした。花々は夏をさかりと咲き誇り・・・。

彼女たちは、自然が持つ雄大さや厳しさを感じただけではなく、自然の中に溶け込んだヒュッテや木道や、石組の山路や古い社殿などの人造物にも美しさを見出した。介護現場に立つ彼女たちの関心事はやはり“人間”だった。そうした自然の味わい方を、彼女たちは私に教えてくれた。

いま、老いて足腰に自信を無くし始めた私には、ふたたび、ゆったりと、山登りを楽しむことができそうな予感がある。

「山の茜をかえりみて、ひとつの山を終わりけり」—“大人の遠足”と呼んでも良いし、気取って“逍遥”と名づけても誰も笑ったりしないだろう—



ハクサンイチゲ



イワギキョウ

チブリ尾根登山道の外来植物対策について

北市 正

当会が登山道維持管理業務を14年間にわたって実施している、チブリ尾根登山道。原生林の登山道やお花畑、白山本峰の眺望と多くの魅力を持ち、多くの登山者に親しまれています。

一方で、この魅力的な登山道の利用者が増えた背反としてオオバコを中心とした、本来は生息しない植物の登山道周辺への拡大が目立ってきました。除去が必要ではありますが国立公園内であるため、外来種であっても抜き去りには許可が必要となります。そこで昨年度、外来種の拡大範囲の調査を実施する一方、除去の許可団体である環白山保護利用管理協会と話し合い、2016年度から除去を含む外来植物対策を実施する事としました。

対策活動の重点ポイントは①供給源対策②繁茂エリア対策③上限対策です。①は猿壁登山口の外来植物を除去すると共に拡大を防ぐためのマットを取り付けます。②は昨年度の調査を基に、登山道内での供給源となっている繁茂エリアの抜き取りです。一般的にオオバコは広場に多く繁茂しますが調査の結果、登山道では沢やぬかるみを通る際に種子が落とされて繁茂している事が分かりました。③は既に避難小屋に対策ブラシを設置していますが、標高2000m以上に外来植物を繁茂させないという石川県主導の対策と同じ思想のものです。

今年度①は6/11に実施済み、②を7/23に実施予定でした。6/11は参加者総数27名、下は4歳、高校生から上は69歳まで幅広い年齢層の方に参加を頂きました。地味な作業ではありますが、皆さん主旨を理解して頂き、楽しく作業が出来ました。除去した植物の総数は重量17.6kgで、このうちオオバコが10.5kgでした。過去の白山(特に外来植物の供給源となっている各登山口)での除去活動のなかでオオ

バコ以外をこれだけ除去したのは初めてと言われています。また、登山道路線の維持管理を行う側が、外来植物対策も一体として実施するのは、初めての試みです。5年間程度は継続実施し、効果を見極める計画でおります。

※7/23に予定していた外来植物対策は登山道への資材運搬道路が落石による通行止めのため中止順延しました。9月に実施予定で、日程は決まり次第お知らせします。多くの方々の参加をお待ちしております。





トラスト日記⑰

「炭焼き窯跡」

垣本 哲夫

2016年6月12日(日)今年初めてのトラスト現地作業に入る。当会が当地を入手し6年目になります。

改めまして当地の様子ですが、面積はざっと4.5ha。うち植林による杉がざっと6割を占め、あとの4割は落葉広葉樹となっております。

西側と東側に沢がありますが、東のそれは涸れて西側のは僅かに流れがあります。将来を見越し3年前6割を占める杉を4割～5割見当で間伐をしました。杉と広葉樹の混交林になる事を願っての作業でしたが私達はそれを観る事はないでしょうね。炭焼き窯跡が2基あり今回の作業でこの窯跡を繋ぐ道を開伐をしました。今後は「西窯跡」と「東窯跡」と呼ぶ事にします。両窯跡間はざっと200mでこの様な至近距離で窯を造り炭を作っていたということはこの周辺は豊かな落葉広葉樹が広がっていたのでしょうか。因みに現在の落葉広葉樹林は二次林と言うこととなります。中には(多分何らかの訳で伐採されず残った)ヤマナラシの大木もありますが、、、化石燃料時代前はここで焼かれた炭が燃料の主体を占め消費地に運ばれかつてはこの窯(跡)が消費地と繋がっていたことを今この窯跡を見るにつけ思い起こさせてくれます。

林全体ではこんなところですが毎回の作業の継続としては林間道の整備(新たな開伐も含む)・植生調査・境界線の管理等です。作業は5名で行いました。2名は主として植生調査(調査の詳細は又の機会にでも)3名で林間道の開伐並びに林間道の整備です。

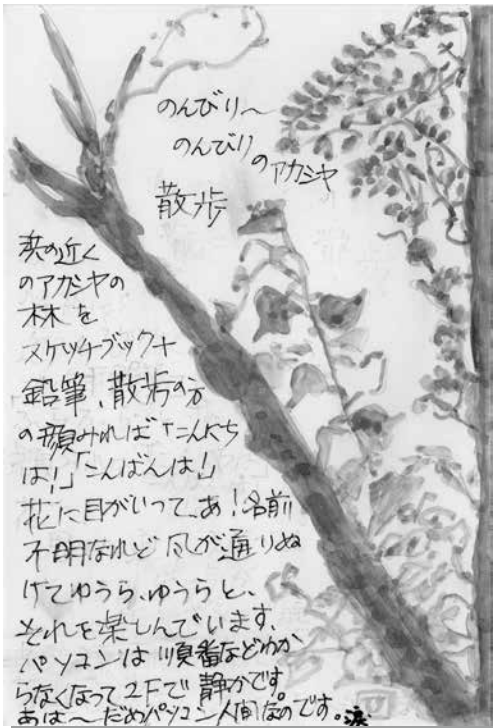
実施した間伐で陽が多く入った結果なのかササユリが年々増加の傾向にあります。今回も目を移す度に見ることができました。一度林の中を彷徨ってササユリ探してもいかがですか、、、

熊による「杉の甘皮剥ぎ」も観られました。林業を生業としていれば大損害ですがね。ナメコ狩りを楽しませてくれたミズナラはもう幹だけになりそれも段々土に還ろうとしております。替わってその周りの若木が初夏の空に枝を伸ばしています。このように自然の大きな営みを感じることができこのトラスト林を今後とも大切にしたいと自然の恵みに感謝しながら作業を終えた次第です。

7月24日(日)再びトラスト現地作業だ。前回よりも緑が一層濃くなっている。ノギランは実をたわわに付けササユリはその名の様にササと見分けがつきにくく、あの可憐な花の時とは打って変わって周りの草達の中に溶け込んでいる。リョウブの花は今真っ盛りアクシバの花は初めて目にしましたが何とも可愛らしい花です。この様に夏の林に入ると普段あまり目にする事のない花を楽しむ事ができるのもこの時期ならではのものです。でも、、、一寸あついなーという事になりますか。

今回は予定していた「東窯跡」から東境界線まで歩道を開伐延伸(約50m)しました。これにより「西窯跡」と「東窯跡」を経由して東境界線まで繋がった横断する歩道となりました。皆さん林の中の楽しみが増えましたよ。それから「西窯跡」の整備を行った。先ず長年堆積した落ち葉の除去。これはふわふわと難なく出来たのですが、その下から現れたのが夥しい根っこです。これが栄養たっぷりの腐葉土にびっしりと絡まってこれとの格闘、鍬を打ち込んでもこの根っこに取られて思いのほかの2時間余りの悪戦苦闘でした。この層を約20cm掘り下げたところで終了としました。今後まだ手を加える必要があります。今後この場所を一寸した休憩場所にしようと思っています。

今回4名の参加でした。参加された方々お疲れ様でした。



上記2葉は、会員の山岸久子様より頂いたものです

出かけてみませんか

白山麓見て歩き

日時：10月2日（日） 9時集合
 場所：白山市白峰地区一帯
 集合：白山比咩神社駐車場（山側）
 参加費：500円（保険料含む）
 連絡：加藤
 090-7749-2579

クリーン活動

日時：10月23日（日） 7時集合
 場所：刈込池（福井県大野市）
 集合：白山比咩神社駐車場（山側）
 参加費：500円（保険料含む）
 連絡：加藤
 090-7749-2579

※上記の各行事の詳細については、同封のチラシをご覧ください。

ホームページが新しくなりました。

◆白山の自然を考える会

<http://hakusankangaeru.wix.com/mainpage>

◆チブuriから考える白山の登山道整備

<http://hakusan-chiburi.wix.com/home>

「会報」編集委員 大募集中！

当会では、会報の編集に携わっていただける方を大募集しています。あなたの感性を、ぜひ当会の会報に活かしてみてください。興味のある方は、下記までご連絡ください。

<加藤 090-7749-2579>

夏・白山 あれこれ（撮影・北市 正）



<ハクサンコザクラと御舎利山>



<ニッコウキスゲ>



<編集後記>

いよいよ夏ですね。会員の皆さんもいろいろな山に入られることと思います。白山以外でも、山の情報をあれこれお寄せください。写真もいただければ、ホームページに掲載させていただきます。なお、安全には十分にご注意されて、山行をお楽しみください。